

平成29年度

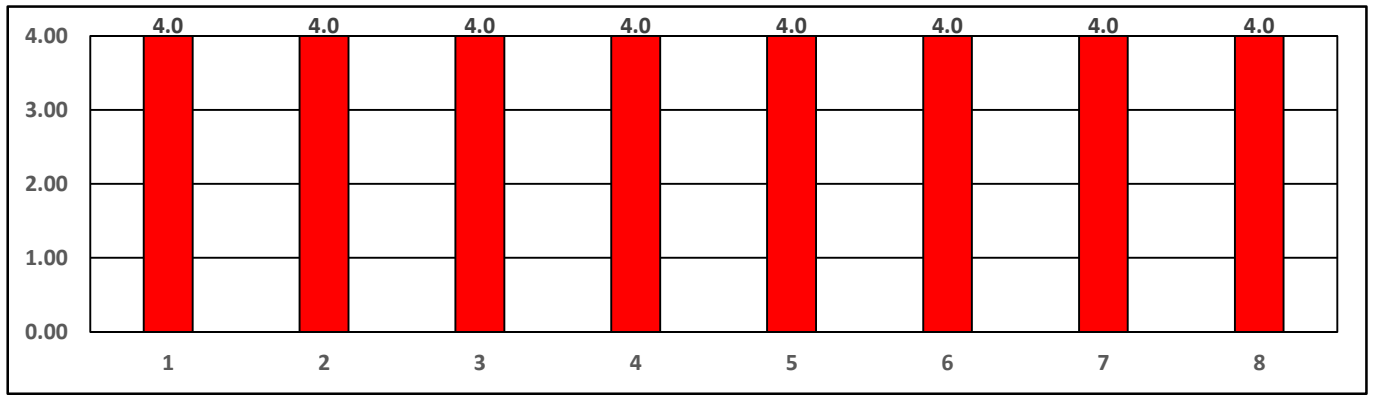
三草会札幌看護専門学校

学校自己点検・自己評価報告

平成30年7月13日

I.教育理念・教育目的・目標

平均値が4.0で概ね高く評価している



	項目
1	教育理念・教育目的は、本校の教育上の特徴を示しており、かつ、法との整合性があるか。
2	教育理念・教育目的は、学生にとって学修の指針となるように具体的に明示され、実際に指針となっているか。
3	看護・教育・学生観について、教員の教育活動の指針となるように明示され、実際に指針となっているか。
4	本校の教育理念・教育目的が教育目標と一貫しているか。
5	教育内容の階層的関連性、配分の考え方が明示されているか。
6	教育内容は、設定した教育内容を網羅しており、かつ、卒業時の学生の到達度が明示されているか。
7	教育目標は、看護者としての能力を育成する側面と修学者としての成長を促すための側面から設定されているか。
8	卒業後の継続教育の考え方を示した上で看護基礎教育として、教育目標を設定しているか。

<現状>

三草会は「あることの尊さのアプローチ(一緒に治る喜びを分かち合おう)」が基本理念である。理念の核は「人間の尊厳」と「人間愛」である。

本校はこの2つの精神を基盤とし「人間の尊厳と人間愛の精神が学生ひとりひとりに根付き、変化し続ける社会の中で看護を実践できるための基礎的能力を養い、人々の健康と幸福な生活の向上を目指し、保健・医療・福祉の中で社会に貢献できる専門職業人の育成を行う」としている。この理念は設置者の精神を反映しており、学生にとって学修の指針となるように明示されており、教員の教育活動の実際の指針となっている。

また、本校ではどのような看護師を育てたいか、つまり卒業時の教育目的から看護師像を明確にして理念、目的が目標と一貫しており学校の特徴が反映されていると考える。

<課題>

教育理念・教育目的は固定されたものではなく、継続的な改善を前提として設定している。社会的ニーズ、学生の背景も変化している。時代を担う看護師を養成するために、これらの変化、発展の方向性を把握・分析・解釈した上で今後評価していく。

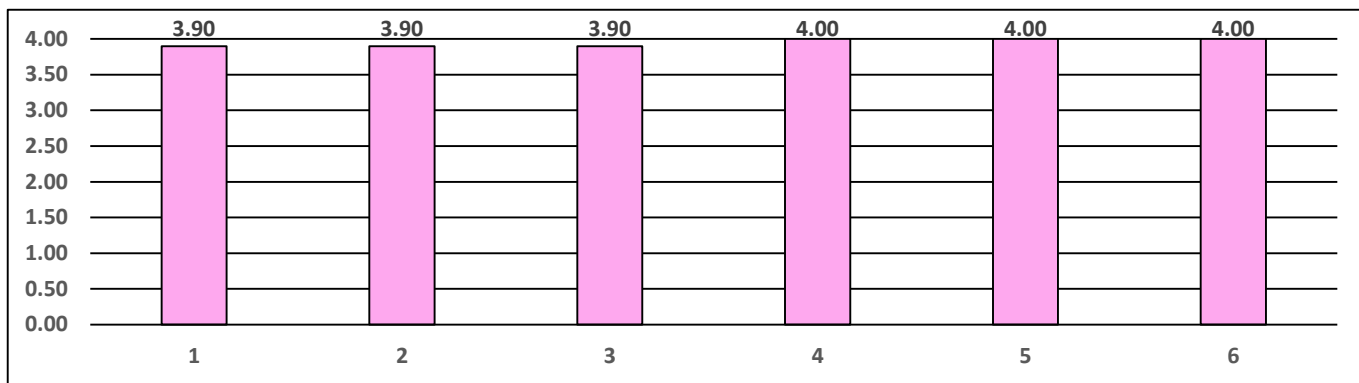
<改善策>

1)教育理念・教育目的・目標は学生にとって学修の指針となることから、評価にあたっては、卒業時における学生の達成状況が指針となる。

2)教育の結果をどのように評価するかについての考え方、具体的な方法を示し、効率的、効果的な評価計画を作成していく。

V.入学・卒業・就職・進学

平均値3.94と概ね高値である



項目
1 本校の教育理念・教育目的との一貫性から、入学選抜の考え方(選抜基準等)を明確にしているか。
2 入学後の成績の推移等、入学者の状況を分析し、選抜方法の妥当性を検証しているか。
3 入学希望者を確保するため、積極的な募集を行っているか。
4 卒業時の到達状況及び就業・進学状況を分析し、教育理念・教育目的との整合性を検証しているか。
5 卒業生の就業先での評価を把握するために就業先との情報交換や調査ができる体制を整えているか。
6 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理して、教育理念・教育目的、授業の展開に活用しているか。

<現状>

平成29年度入学試験は推薦入学・社会人(平成30年度からは11月)・一般入学試験の3区分で実施している。いずれも12月に実施していることから、社会人、一般受験生は他校との併願者が多い。

推薦入学試験は高校の内申点が3.5以上で高等学校長が推薦する新卒者を対象としており、小論文と面接試験及願書等出願書類を含み総合判定で選考している。面接評価基準及び小論文採点基準を設定している。社会人は基礎学力として国語総合の学科試験と面接試験及び願書等出願書類を含め総合判定で選考している。

一般入学試験は国語総合・コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ 数学Ⅰ・Aの3科目の学科試験と面接試験及び出願書類を含めて総合的に判断し選考している

受験者数の動向や入学者の出身校及び在籍数の動向については、教育計画に掲載している。推薦受験入学者・社会人受験入学者・一般受験入学者各々の受験者数及び入学者数、男女数については、北海道看護教育施設協議会へ資料開示している。

就職に関しては札幌を中心に道内外からの募集要項が送られてきておりロビーに展示して自由閲覧としている。

就職・進学希望調査は、1期生の3年次の4月に1回目を実施する予定であり、確認後進路相談教員が個別対応を随時行う同時期に就職活動への本校の考え方をガイダンスする予定である。

<課題>

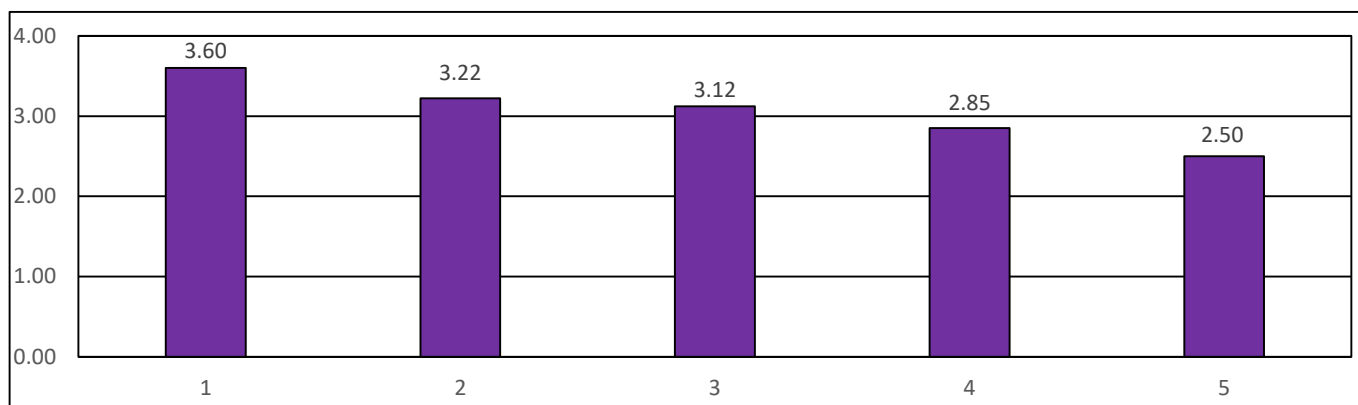
- 広報活動の充実をはかり、受験者数の確保維持
- 学生の就職活動及び進学への支援の具体化
- 病院・施設等からの募集要項の展示の継続

<改善策>

- 1)入学者の成績評価の分析を行い入学試験問題・入学試験の選考基準等の評価
- 2)同窓会規約の見直し、活動計画

VI.地域社会・国際交流

平均値が3.05であり他から比較すると低値である。



	項目
7	社会との連携にむけて、地域のニーズを把握し看護教育活動を通して、地域社会への貢献を組織的に行っているか。
8	本校の教育活動について地域社会のニーズを把握する手段、また地域社会へ情報を発信する手段をもち、かつ発信しているか。
9	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を本校の学習・教育活動に取り入れているか。
10	国際的な視野を広げるための授業科目を設定しているか。
11	国際的な視野を広げるための自己学習に適した環境が整っているか。

<現状>

他の項目と比較すると低く特に国際交流は低い。地域連携では1期生入学式(開校式兼)に民生委員長・町内会長を招待し待機との繋がり糸口をつけている。

夏には民生委員の方々から校内見学の希望があり実施している。町内会の活動としては、看護の日に町内会にある公園のゴミ拾いをボランティア活動として年間計画として実施している。ホームページではこれらをリアルタイムな情報発信を行っている。

学習環境では校内・図書室のパソコン利用が出来る設備をしている。専門書蔵書の拡大を図り図書室で学習できる環境を整えており、学生は活用している。

<課題>

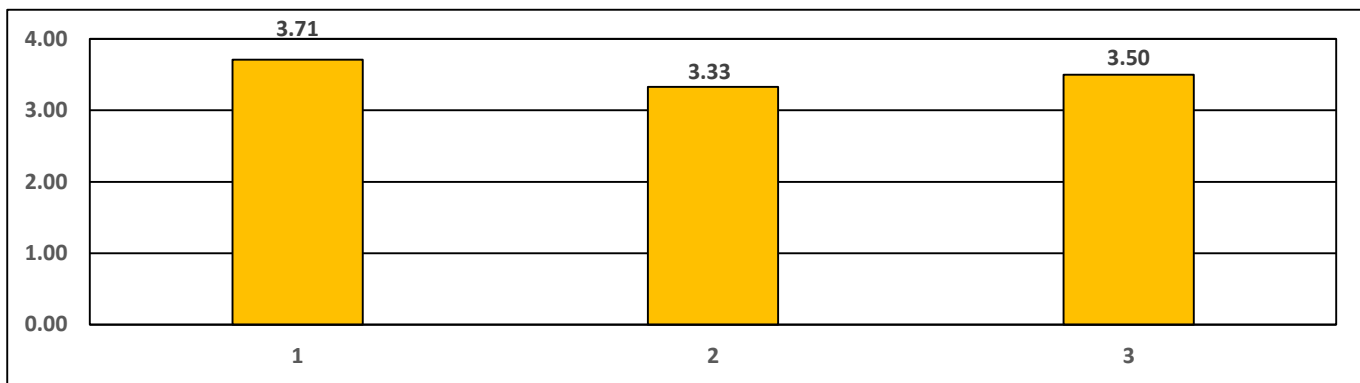
関係福祉施設及び地域の福祉施設等のボランティア活動はこれからも継続して取り組んでいく国際的に視野を広げるとい意味では十分とは言えない。検討が必要である。

<改善策>

- 1)国際的機関紙・医中誌WEB等文献検索システムの導入
- 2)広報活動に情報発信の拡大
- 3)国際活動の経験者から特別講義

VII.研究

平均値が3.51と他から比較すると低値であった



	項目
1	本校には研究に価値をおき研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地があるか。
2	教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか。
3	教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか。

<現状>

教員の研究活動の保障が他の項目より若干低い。教員(個人の研究)は実務が優先されてしまい時間の保障が得られない事が2の項目が低い結果の理由と予測する。

研修・研究活動費は設けられており、財政的には保障されている。

校内研修委員係を組織に位置付け授業研究、模擬授業、授業評価、事例検討会、学会報告会の年間計画を立案し教員全員が実施し継続している。

学会は各領域別で参加している。まだ学会発表等の実績はなく、完成年度を終えて現在している研究活動からの学会発表に繋げる計画を進めていきたい。

<課題>

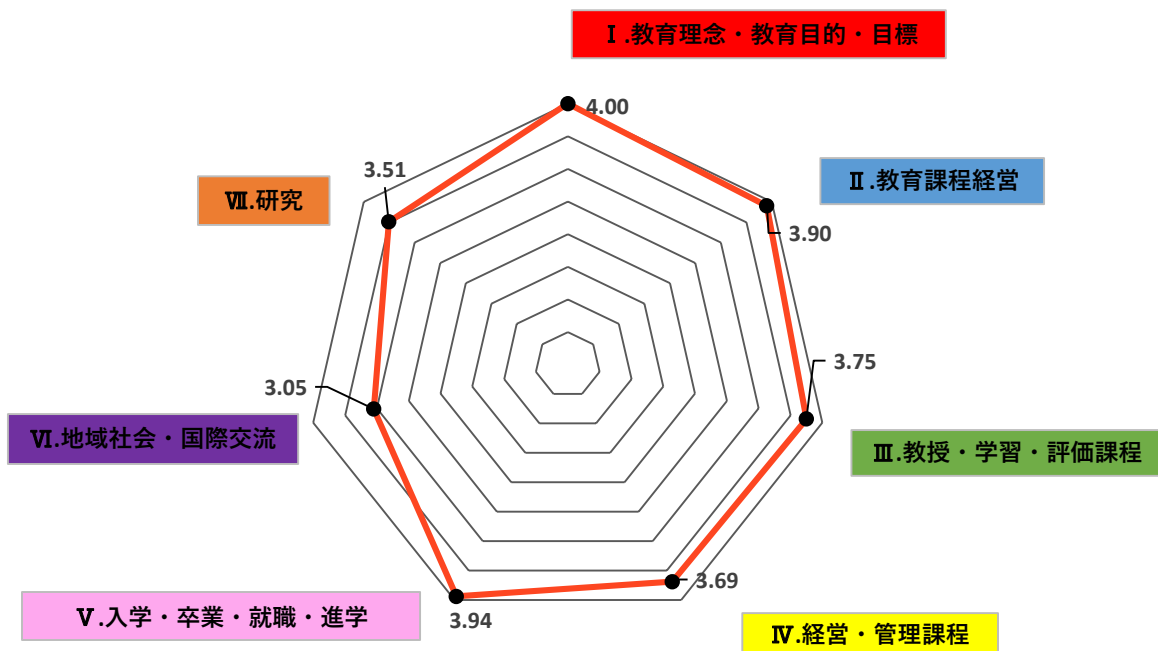
個人の研究活動が実務優先の為に取組めないことがないように、時間・環境への具体的支援活動計画を考えていく必要がある。又校内研修においても教員がそのための準備が重荷にならないよう配慮していく。

学会発表の取組みについては教員間の共同を図り支援体制を計画していく

<改善策>

- 1)今後教員個人の研究活動支援の具体的計画を立案
- 2) 1)に伴う時間的保障

〈7領域における自己評価〉



分析方法

「A:そう思う」・・・4点

「B:ややそう思う」・・・3点

「C:あまりそう思わない」・・・2点

「D:そう思わない」・・・1点

無回答は平均値の分母から除外

回答数 教員1名 (事務のみ記入分あり)

職員1名